平成２８年度第２回美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事録

１　日時

平成２８年１１月７日（月）午前１０時００分～午前１１時１０分

２　場所

美祢市役所３階 委員会室

３　次第

（１）開会
（２）会長挨拶
（３）議事
　ア　副会長の選出について
　イ　美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部変更について
（４）その他
（５）閉会

４　配付資料

（１）平成２８年度第２回美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会議次第
（２）美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿・配席図
（３）議案　美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部変更について
（４）資料①　美祢市人口ビジョン
（５）資料②　美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略
（６）資料③　旧丸和店舗跡地利用・美祢市議会での意見

５　出席者名簿

◎は会長、○は副会長

区　　分		氏　名	出欠席
委員	美祢市議会議員	◎ 竹岡　昌治	出席
	美祢市議会議員	岡山　　隆	出席
	公募委員	田原　義寛	出席
	公募委員	堀田　勝利	欠席
	カルスト森林組合　代表理事組合長	○ 髙須　修三	出席
	ＪＡ山口美祢　代表理事専務	山本　善継	出席
	美祢市商工会	齊藤秀一郎	出席
	美祢市観光協会　事務局長	佐々木秀介	出席
	山口県宇部県民局　局長	中村　孝史	出席
	山口県立美祢青嶺高等学校　校長	古谷　修一	欠席
	山口銀行美祢支店　支店長	田中　泰治	出席
	連合山口中部地域協議会 美祢地区会議　事務局長	永井　政夫	出席
	山口新聞美祢支局　支局長	平岩　和也	出席
	美祢市地域組織活動連絡協議会 （母親クラブ）	田中よし子	出席
	美祢青年会議所　専務理事	内海　満夫	出席
事務局	総合政策部長	藤澤　和昭	出席
	総合政策部企画政策課　課長	佐々木昭治	出席
	総合政策部企画政策課　課長補佐	印藤　誠治	出席
	総合政策部企画政策課　主事	西山　洋史	出席

６　会議の内容

（１）開会

（事務局から開会の宣言が行われました。）

（２）会長挨拶（竹岡昌治 会長）

本日は、大呑副会長が退任されたことに伴う副会長の選出と、美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略に中心市街地活性化についての記載を新たに加えることについて、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。また、本市には美祢青嶺高等学校と成進高等学校の二つの高等学校が現在ありますが、この二つの高等学校は教育充実都市の実現において非常に重要な施設であると思っています。このため、美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略に高等学校への支援についての記載を新たに加えることについて、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。

（事務局から資料の確認と、新たに就任された委員の紹介、並びに会議の成立について説明が行われました。）

（３）議事

ア　副会長の選出について

（事務局から、大呑俊彦委員が退任されたことに伴う新たな副会長の選出をお願いしたい旨の説明がありました。竹岡会長から、事務局に対して事務局案の有無について質問があり、事務局から、事務局案として髙須修三委員を副会長に推薦したい旨の発言がありました。髙須修三委員を副会長に選出することについて、委員から異論はなく、全会一致にて決定し、髙須修三委員から就任するにあたっての挨拶がありました。）

イ　美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部変更について

（事務局から、議案「美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部変更について」の説明がありました。）

（「旧丸和店舗跡地利用・美祢市議会での意見」の用紙を配付。）

主な発言（要点筆記）

○竹岡昌治 会長　ここで、皆様方に参考資料と言ってはなんですが、丸和の跡地の話も出たんですが、議会のほうでも議論をし、執行部の若手の職員の皆さんもプロジェクトを作られてやっておられるんですが、第１回の政

策討論会の時に議員の皆さんから出たのを箇条書きにしただけです。その中で一つだけ、最後で、いわゆる行政のワンストップサービスを目指して、農林課がおる別館があります、それから保健センター、その中に健康増進課などが入っています。バラバラにあるんで、いっそうのこと、丸和の跡地、吉則の駐車場が全部隣接しているんで、一回リセットして、根本的に考えたらどうかという意見がありました。その他は１０項目並べてあるとおりであります。議会のほうでは今から議論してやろうと。そうした中で９番目にあるのが、「美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合を図るべきだ」という意見が出ておりまして、まだ第１回でございますから、進んでおりません。また１２月議会でもやって、この会でやられていることとの整合性を図っていこうという意見もあったことを参考までに申し上げまして、議会も動きがあるということをご理解いただければと思ってお配りをしました。

何か皆様方のほうから、ご質問なり、ご意見をいただければと思います。

これにとらわれる必要はありません。これは議会のほうが今話をしているということで、具体的なことも書かれていますので。我々のほうはより具体的にということにはなりません。具体的なものをいわゆるどの幹にくっつけるのかが我々のほうの仕事ですので。例えば、高校の充実と言っても、加計それから吉賀に視察に行って、それから具体的な計画を立てたいというようなご報告があったと思うんですが、教育っていうのは日常生活に役に立つものにしていただきたなと思うんです。

○田原義寛　委員　高校の魅力向上と旧丸和跡地利用を含めての話なんですが、福井県の鯖江市の事例で、実は鯖江市はＪＫ課という課が本当にあって、女子高校生課というのがあるんですよ。担当の職員の方も付いていらっしゃって、女子高校生の意見もまちづくりに反映させて鯖江市を振興しようという取組を実際にされているんですね。高校の魅力向上というのは、もちろん高校生自身にもどうしたら良いかと意見を聞くことも大事かと思いますし、店舗跡地利用に関しても、高校生が将来大人になった時に、どういう街だったら帰って住みたいかというのをちょっと聞いてみるというのは一つの案かなとは思うんですけれども、いかがですかね。

○竹岡昌治　会長　高校時代に自分の街が気に入らなかったら帰って来ませんからね。人材が帰って来て、村おこしをしている所は、高校時代にそういう体験をしたから帰って来てやろうというような若者が居るのは確実ですから、おっしゃるとおりだと思うんですね。

○岡山　隆　委員　まず高校の魅力の向上ですね。これをいろいろ図っていくこと。それと、もう一つは「住み続けられるネットワークづくり」ということで、地域におけるミニバスの運行をどううまく取り込んでいくかです

ね、そして旧丸和の跡地利用、議会からも出ていますし、皆さんからも、住み良いまちづくりにするために、ここについて皆さんが主にこの３点についてしっかりと深めていっていただくということでいいんですね。

○竹岡昌治 会長　いわゆる丸和の跡地をどうするのかという議論ではなくて、具体的な意見が出ないと、どの幹にくっつけるんかというのがありますから、大きな柱を立てる、そしたらどの柱にくっつけるんかというのが大事だろうと思いますし、また必要ならば新たな柱を立てる必要もあろうというのがこの戦略会議だと思うんですね。そうしますと、具体的な話もある程度出てこないと議論は進まないと思いますが。私はそういうつもりで進めているわけですが、いかがでしょうか。丸和も単独で考えるのではなくて、中心市街地形成の中でどう考えていくんかというのは議会の中でも説明しているわけです。そうした中で考えていただきたい。

○内海満夫 委員　丸和の跡地の利用ということなんですけど、例えばこの議会で出された意見をまとめるというのは無理なのかなと思ったんですけど。防府の駅前ですかね、学習塾が入ってたり、書店が入ってたり、オープンカフェが入ってたり、特産物を売ってたりするスペースが１階にあって、２階に会議室だったり、いろいろ習い事ができる教室があるという施設が防府の駅前にあるんですけど、可能であればそういう風にできないのかなと思ったり、複合じゃないですけど、皆さんが集まれる、習い事ができる施設の他に学習塾、書店、オープンカフェ、特産物を売るスペースがあれば、集まっていただきやすいのかなとは思ったりします。

○岡山　隆 委員　周南地域、結構人口が流出して、下松のほうは人口が増えていて、周南の中心街から結構お店が撤退するとか、そういう形で、あれだけのものがなんで撤退するか、離れていったか、非常に疑問に思うところがあるんですけれども、下松に家を建てて、皆さんが教育の面とかいろいろ考えて、住みやすいからそちらに行ったということですね。結構人口が多いからと定住するわけではないし、どういった魅力があったからここに住み続けてきたかなということをもうちょっと考えていかないといけんかなと思っています。

　高校の魅力向上ということで、高校については、小中学校の総合支援学校が、分校ですけれども、本当に大変な中来ていただいたということで、感謝しているんですけれども、支援学校で、１００％就職できる美祢の分室にしたら、全員が総合支援学校に来る高校生の就職を是が非でも、就職に就けるんだという魅力も重要ではないかと思っておりますので、こういったことを美祢市として推し進めていくことが美祢市において重要なのではないかと思っています。

○中村孝史 委員　前任が周南の県民局長でした。下松の人口が減っていない

のは、中山間地域がほとんど無いんです。市街化区域しかないんです。だから、凄くコンパクトで、合併しなかった。周南市が減っているのは、熊毛町、それから鹿野町が、旧熊毛郡が凄く減っていて、周南のまちなか以外はそんなに減っていません、現状維持。周南の商店街が急に寂れたのは、やっぱりモータリゼ—ションって言いますか、車で皆が買物に来だしたんです。下松にザ・モール周南という凄く大きなセンターができました。それから旧新南陽にはゆめタウン新南陽店というのがあります。しかし最近ですね、ゆめタウンが徳山駅から１キロ柳井側、光側に大きな店を作りました。それから近所に、それと下松との間にまたイオンが開店しますからね、流れが変わってくると思います。それから、下松の人口が増えるのは、旧徳山市はバブルを経験していまして、地価が高止まりしているんです。下がってはきていますけれども。下松はそんなにバブルの影響が無くて、マンションが最近下松の駅の近くに建ち始めて、その関係があって人口が増えているのじゃなかろうかと思います。教育自体はですね、主な高校、私立高校は徳山市内、旧徳山市にありますからね、新幹線の駅がありますから、便利なのは徳山なんですけれども、なかなか土地が無いのと地価が高い。で、市内に入ったらわかるんですけれども、駅があってですね、マンションが駅から１キロから２キロの間に放物線状にできているんですね。そうすると買物するのに、駅のほうはじわーと下り坂なんですよ。見られたらわかりますけれども、後ろ山ですから。牛乳買ったら自転車じゃ帰れんのですよ、重たくて。そうするとどうしても車に頼ってしまうということになっているんじゃなかろうかというふうに見えてます。中心市街地はですね、美祢市さんもそうですけれども、どこもだいたい一緒の歴史を辿っているのではないかというふうに感じております。

〇田中よし子 委員　議会のほうからも出ております、若者が集まりやすい施設、これは市内に本屋さんがまず無いということが、私の子供達も言っていまして、近くに本当に本屋さん、子供が利用できる本屋さんが無い。あと図書館なんですけど、６時で閉まってしまうと、高校帰りの子供達が利用できない、また小学生なんかも、なかなか車で送っていかないと伊佐とか厚保の子供達も図書館に行きたいけれども自力ではいけない所なので、やはり図書館の時間延長を考えてもらうと、また図書館を利用したり、そうなってくると本が買いたくなるので本屋さんの充実なんかも、それも駅前にあると、高校生なんかも寄って本が借りやすいし、昔は吉則の街の中にも本屋さんがありまして、伊佐の街の中にも本屋さんがありました。だからやっぱり本屋さんというのは、子供はとても入りやすい場所じゃないかなというのはあります。あとまた、サイクリングターミナルも子供達が、その道があればやっぱり、普通の、今の道は、車社会になって、車が本当

に真ん中を通っているような状態で、子供が安心して自転車が乗れない所もあると思いますので、やっぱり道の整備もこれからは必要になってきて、昔ながらの道だと、やっぱり車、自転車というのは危ないのじゃないかなというところがあります。

○中村孝史 委員　丸和の店舗の耐震性は大丈夫なんですか。

○竹岡昌治 会長　耐震性は大丈夫ですけれど、店舗ですから、ガランガランなんです。

○中村孝史 委員　柱が少ないから、何をするにしても改造せんといけんでしょうけど。

○竹岡昌治 会長　逆に、柱が無いということは、やりやすくもあります。

○佐々木秀介 委員　今、１番から１１番まで、丸和の跡地のアイデアを、その大前提として私が知りたいのは、市民の人達に使ってもらうことを考えるのが目的なのか、それとも市外から人に来てもらいたいような施設として機能させたいのかというようなところがまず一つ知りたいなと。それでだいぶん何をやっていくかが変わってくると思うんですね。あるいは両方ターゲットにするとか。あともう一つ、マーケットということで考えると、美祢市の施設として考えた時でも、どうしても旧美祢市が中心になってくると思うんですね。施設の内容によっては、例えば地元特産物販売所だったとすると、美東には似たような施設があるでしょうから、そうすると仮にそういった物を作っても美東から来ないとなると、美東はマーケットから外れるわけですよね。そういったような考え方をこの中で考えていくと、おのずと、これは残るかな、これは外れるかなというようなところが出てくるのかなというのがあります。

　あともう一つは、やはり賑わいをということであれば、ある程度他市、他県からでも来れるような施設があったらいいのかなというふうに感じるんですね。私個人的な考えでいきますと、鉄道というのは凄く人を引き寄せる力がある。山口県は鉄道王国なんですね、実は。鉄道の車両を作る会社も県内にあったり、あるいは、美祢の話だけでいけば、大嶺炭田の石炭を運んでいくということで、そもそも美祢線が開通したということですし、更には石炭ということでいけばジオともつながってくる。今このエリアで見てみると化石館、あるいは歴史民俗資料館がバラバラになっているんですね。そういったものを例えば一つに集約して資料館的な、博物館的な、あるいはそこに鉄道のそういった要素を加えたような資料館、博物館みたいな形にすれば、市内からでも来てもらえるチャンスが出てきますし、当然それが市内の学校教育、ジオ活動というものにもつながってくるでしょうから、市内外の人を寄せ付けるコンテンツになってくるのかなと。そこに物販ですとか、そういったものを複合的にしたり、あるいは市民の方に

使っていただけるようなスペースとか、先程の本屋さんでもいいと思うんですけれども、いろんな方が使っていただけるような複合的な施設にしていくというようなことで、マーケットも市内であったり市外であったりいろいろな方を対象にしていけるような施設になるのかなと、特に鉄道なんかですと、好きな方は日本全国から、実際に厚保の駅が、ごめんなさい、「アホ」と読めちゃうと。それでどんな駅なんだろうということで実際に厚保の地域交流ステーションの方とお話をすると、名前の違い、面白さだけで全国からどんな駅なんだろうというふうに尋ねて来て、向かい側の電気屋さんで記念の切符を買って帰るというようなくらいの引き寄せるパワーがあるわけですね。そういうような鉄道というコンテンツをうまく使って市外の人達を呼び込んでくるというようなことを一つご提案としてお話させていただきます。

○**竹岡昌治 会長**　佐々木さん、ついでにそこのＳＬを動かしいや。

○**佐々木秀介 委員**　ＳＬ動かすとかなりのコストもかかりますので、できればそちらのほうが良いのかなと思いますけれども、そういったことも含めて、やはり鉄道というコンテンツがかなり人を引き寄せる力がありますし、ビジュアル的にも、ＳＬなんかがありますので、その辺をうまく活用されるとよろしいのかなと思います。

○**竹岡昌治 会長**　今の話ですが、ちょうど美祢駅の横、ポケットパークがあるんです。あれは何年経っていますかね。もう、用途替えしてもいいでしょう。石張りがしてありますんで、夏は暑い、冬は寒い。あっこら辺にＳＬを持っていったり、それから用途替えして何かしたらどうかという、今おっしゃったようなことが実は出ているんですが、中心市街地というのはお店をたくさん集めるということではなくって、規模をどう持たせるかですから、今おっしゃったように、そういった見る場所、遊ぶ場所、そして医療があり、介護もありという、やっぱーまとまってないとですね、機能が、でないと中心市街地にならないだろうと。確かに下松の話も出ましたけど、買物はちょっとしたものは遠くに出る、それから身近なものをどうするかが一番大事だろうと思うんですね。それから、もう一つは、残念ながら、今の本も美祢ではマックス６千万くらいしか売れないんです。で、出て来ないんです、業者が。そうしますと図書館をどう充実させるかということが次の問題になるんです。今の若者、僕達は旅で本を買って読みますが、今の子供は１０行しか読まないですよね。それ以上は読まない。今頃のは、簡単なものは１ページ毎にタイトルが違った本が多いと思うんですが。

○**内海満夫 委員**　さっきＳＬを動かす話のあれなんですけれど、あれは走らせることはできないんですか。どっかまちおこしで１０年くらいかけてＳ

Ｌを復活させて、まちおこしに使われている所をテレビでやっていたので、そういうの走らせられないのかな思ったんですけれども。

○佐々木秀介 委員　私の知っている範囲で言いますと、そこに停まっているそのものを動かすというのは相当難しいかな、コストですとか、状態ですとか、そういったものがあるんで。例えば美祢線で走らせるのであれば既に走っているＳＬやまぐち号、あーいった物を美祢線で走らせてくださいといったほうを仕掛けたほうが現実的にはありえるのかなと気がいたします。一方で走れないんですけれども、かなり状態は保存されている中ではいいほうだと聞いておりますので、例えば汽笛が鳴らせるようにするとか、コンプレッサーを外付けして、ちょっと細工して、ボーって鳴るようなことですとか、あるいは照明が付くようなことができますので、例えばお色直しをして、そういった装置を付けることによって、例えば桜まつりとかランタンのまつりとかのイベントの時に汽笛をボーって鳴らすとかですね、保育園の方とかが来た時に鳴らしてあげるとか、それとかお昼のチャイム替わりに鳴らしてあげるとか、そういったような活用の仕方をするというのは比較的に簡単にできるかなと。ただ走らせるというのは難しいかなと思います。

○田原義寛 委員　ＳＬの話につけ加えなんですけれど、麦川にやまよ商事という会社があって、今主力はダスキンのほうなんですけれども、元々はＳＬの燃料に使う石炭を供給している会社だったんですね。今でも日本で走れるＳＬ、結構な数の所にやまよ商事のほうから、インドネシアから石炭輸入しているみたいですけど、供給しているという話は社長さんから伺っているんで。ＳＬ自体は走らないですけれど、麦川にそういった隠れたすばらしい会社もあるということも一つ美祢市の魅力だと思うんで、それはぜひ紹介して、ダスキンとかかっていますけど、どっちかというとＳＬの燃料を供給する、国内のいろいろなＳＬにですね、そういう面では美祢市の凄く魅力かなと思っています。ちょっと遠いですけれど、中心部から離れていますけど。

○齊藤秀一郎 委員　跡地の件は佐々木さんがほとんど言われたんで、基本的には言うことはないんですが、何に利用するにしても維持費がかかってくると思うんですよ。

○竹岡昌治 会長　丸和の跡地。

○齊藤秀一郎 委員　それじゃないですけど、それを考えても非常に難しい案件だと思うんですね。しっかり皆で協議していただいて決めていただければと思うんですけれど、僕のほうからは、バス路線の維持とか、現実的に可能なんですかね。

○竹岡昌治 会長　いわゆる路線バスのことですか。

○**齊藤秀一郎 委員**　それもそうですし、美祢線の件も、実質的に時間的にもかなりバスが減っている状態で、うちからこちらに来る分も１日３便ぐらいしかない状態で、所詮利用者数だけで言えば減ってくるもんで、便数を一つ作るのに２００万円ぐらいこちらから出さんにゃ維持してくれないという問題もある中で、そういったことが現実的に可能なのかと。

○**藤澤和昭 総合政策部長**　地域内の公共交通網についてはですね、現在交通協議会と言うところで美祢市内の交通網をどのように作っていこうかと議論されております。その中で大きな考え方の一つは、路線バスっていうのがあります。路線バスは民間事業者が基本的にやられているんですが、そこに多額の補助金を出して、よく言われる「空バス」って言うかな、空気を運んでいるというのがあると思うんですね。その中で、そうじゃなくてもっとコンパクトと言うか、地域内を網のようにして、中心拠点、ハブって言いうんですか、そういう所を繋ぐような交通施策に替えていこうと。そうすると路線バスではなくて、今この辺走っています赤バス、ミニバス、コミュニティバスを走らせる。そのほうが経費が少ないですし、路線バスよりも小回りが利く。でももっと小さな輸送手段のほうがいいんじゃないかと今議論されています。先進地ですと、タクシーやワンボックスカーですとか、それを市がするのか、あるいはコミュニティが自主運営して、それに支援するのか、いろんな方法があるんですけど、そういったきめ細かな選択の中で選んで市内の皆様方がどこに住んでいらっしゃっても必要最低限の生活が送れるような交通網を作ろうとしています。今おっしゃったように、大きなバスを走らせるのは大変なコストが要って、どちらかと言うと効率的に悪いので、もう少し視点を変えて、違うものを、ですから今回ミニバスに付け加えて「等」と入れたと思いますけれども、もっとコミュニティ単位の運送手段を作っていこうと考えています。もちろん財政にも限りがありますので、そうせざるを得ないというところもあるんですが。もう一つ今回の協議会の中で、まだ途中経過なんですけども、大きな流れで市がするのはどういう役割だろうということが議論されているんです。美祢市って他の所に比べて路線バスが凄く入っているんですね、いろんなバス会社が。それは観光地だから域外からのバス路線があって、ややもすると美祢市民の生活の視点では使いにくいダイヤになっているんですね。私達としては市がすべきものは市民が使いやすいダイヤとかにするんだったら、思い切って域外からのはもう私達は手を放して、それは広域性のある県であったり、連携市であったり、そこが負担して、市は市内の市民をどう真ん中に持っていくか、市内の異動に限定していくべきかではないかということで今計画が固まってきつつあります。

○**齊藤秀一郎 委員**　正直、観光地の路線バスがどんどん減っているですよ、

現状で。どんどん利便性が悪くなっている。山口県って道がいいじゃないですか。８割がた車で来られるですよ、観光客って。それで山口県は二次交通が悪い悪いってずっと他県から言われている。永遠の課題だと思うんです。その中で利用者の少ないところの部分で本当に予算が取れるのかなということで。

○**藤澤和昭　総合政策部長**　今おっしゃたように二次交通に生活路線バスを今までは併せていたというところがあって、無駄があって、二次交通がどんどん減らされているので、どんどん不便になっていった。僕らは割り切っちゃって、極端な話、美祢から市域外に出るのは市の役割ではないよっと。それは県や広域に要望していったり、その施策を打っていただくようこちらは働きかけていくと。私達は市民の皆様方の生活にふさわしいダイヤであったり運行手段を確立、確保していくほうが持続可能な交通網となっていくのではないかと考えています。

○**岡山　隆　委員**　ミニバスの運行に関して、江原とか厚保のほうとかいろんな所でミニバスが運行されておられますね。お年寄りで車が無い、これに頼らざるを得ない方が、そういう面ではミニバスの運行によって買物難民の一役を担っている、そういう役目も私はあると思っています。そういう面では更にミニバス運行等でこういった買物難民で困っている所の運行っていうのは、市内を見据えた上で進めていくことは大事かなと思いますけれども、公的なバス路線においては、便数が減ってきているし、と言って補助金を１億３千万円、４千万円で、運行が減っているけど、便数が減ってきているけど、補助金の額があまり変わってきていないような気がするんですけれども。その辺のことと併せてですね、ミニバス運行についての買物難民に何らかの形で支援をしていくという、そういうところの、私は織り込みも必要ではないかと思っていますので、その辺の考え方についてお尋ねしたいと思います。

○**藤澤和昭　総合政策部長**　買物支援と交通体系の整備は密接に繋がっていると思っています。私共も市の中心市街地を形成する、魅力を高めると同時にそれぞれ住んでいらっしゃる方とのネットワーク、つまり集積、集約とネットワーク、この両輪で進めていかないといけないと考えています。そしてそこは交通であり、通信であり、そういった繋がりが必要になって、そこは市として対策を打っていこうと考えています。しかし、一方でその繋がりだけでなく、やっぱり魅力ある核が無いとそこの街としての力が弱まってくると思われますので、集積とネットワークがこれが大事になってくるんだと思っています。

○**田中泰治　委員**　今日の議事として、中心市街地の活性化ということと、二つの高校についてのこの二つを一部変更ということの承認。中心市街地の

活性化については皆さんかなり深堀りされたような感じになっておりますけれども、高校のほうについては、今日校長先生来られていないですけれども、高校の魅力向上というところで、このファジーのままで今日はもう終了ですか。

○**藤澤和昭 総合政策部長**　委員のご指摘のとおり、今日あいにく都合が悪くて校長先生がお見えにならないので、事前に校長先生とお話をさせてもらっておりますので、そのあたりお話をさせていただけたらと思います。特に委員が今美祢青嶺高校の校長でありましたので、美祢青嶺高校のことに限ってお話させていただきますと、現在定員が、普通科が７０名、この中には特進コースと進学コースの２コースに分かれています。工業系が機械科３０、電気科３０、これが定員です。しかしながら現実はザクッと言って志願倍率が０.６とか０.７ですから、一学年９０人くらいの規模になっているんです。私達が問題意識として持っているのは、かつて美祢市には三つの県立の高校があったわけです。大嶺高校、美祢工業高校、美祢高校、これらを集約して、再編してこの地域に高校を残す、これが現在の県教委の考えです。残すと言いながらも現状は更に厳しい状況が私達の前に現れている。そうした時に私達美祢市としてはこの市内唯一の公立高校、もう一つ私立の成進高校もありますが、この二つの高校を守って、魅力を上げて、地域の方が高校行って勉強したり、スポーツをしたり、文化を高めるような街にしないと、街としての存在価値、そこすらまでいくんじゃないかという危機感を持っております。一方で、校長先生側としても、先程言ったように県教委としてはこの地域に高校を残すという政策をしているので、一生懸命やっている。ただし、市内の中学校との連携や保護者様にもっともっと情報提供しないといけないので、こういうのを市が政策として打ち出すことによって具体的な事業が出てきやすくなります。そこを望んでいらっしゃったので、ぜひ、今日欠席なんですけれども、高校教育だけでなく、小中学校や、幼稚園から含めて子供達を育てるという観点でこの高校の魅力向上を取り上げていただきたいと申しつかっておりますので、お伝えしたいと思います。

○**竹岡昌治 会長**　なぜ加計かを。

○**藤澤和昭 総合政策部長**　このまち・ひと・しごと創生総合戦略の一つは、正直言って財源確保で、国の政策に美祢市はこうやって街を作るんだよとやったら、財源が来るわけです、人も来るわけです。あるいはいろんな資本が入って来やすくなります。そこで挙げています。なぜ先程二つの、島根県や広島県の加計高校になるんかというと、そこは総合戦略の中で魅力ある高校づくりってやって、市民にそこの高校に行ってもらって、もっともっと元気にしていこうというのを打ち出しているんです。それが我が国

の中で非常に特徴ある政策として認められました。私共としましてはぜひそこを参考にして、それ以上にですね、人材を育てていくような街にしていければと思って視察にも行こうと考えております。加計高校などではですね、海外留学を進めたり、あるいは間接的ですけど、財政支援、人材支援をして、進学の指導をしたり、あるいはもう一つのほうは通学のバスですとか、通学用補助とか、通学負担の軽減とか、奨学金制度とか、いろんなことをして皆取り組んでいる。地域に子供達を引き止める、あるいは外に行っても愛校心や愛郷心を培われた子供達が戻って来るような施策をして、人口減少問題やまちづくりを進めておる街なんです。そういう所を参考にしながら本市におきましても教育の充実した街に作り上げていきたいという考えで取組もうとしております。

○竹岡昌治 会長　今部長が話しましたように、愛郷心は大事だと思うんですよね。実は三井物産を辞められて、内子町出身の方なんですけれども、辞められて内子町で、道の駅で働いておられる。東京と内子町を行ったり来たりしながら、何をしているんかと言うと、結局は特産物をどうやって作るのか、あるいは道の駅でどう売るのか。建屋はたいした大きさではなかったんですが、７億売って、６０人の従業員さんがおられて、７億で６０人では生産性が低いんですよね。いわゆる農家の農産物を出しても１０％ないし１５％です。そうすると６０人で７億というのは生産性が足りないなと思っていたら、まずチーズを作っています。パンを作っています。それからハムとかソーセージとかも作っています。そうした人材がどうしていらっしゃるのかと言ったら、皆ドイツで勉強して帰って来て、内子町出身の人達が帰って来てですね、加工部門を持っていて、豚を一週間に６頭買っているということで、それを皆、精肉でも売るんですが、ハムとかソーセージに加工して、チーズも売っているし、パンも売っている。パンだけでも７千万売っている。加工部門を持っているということであれば６０人というのはわかる。非常に粗利益率の高いものを持っている。その町に商業の後継者が５０人もいらっしゃる。皆帰ってきたということです。私痛切に思ったのは、学校教育もさることながら、そうした技術の継承を美祢市はしていないですよね。実はうちの店舗でもパンをですね、３，６００万ぐらいですか、年間。それで十分３，６００万売れば利益が出ますから、その人も実は下関に戻って独立しちゃった。そういう人達を育てるのも大事ですが、呼んでくることも大事だと思うんですね。呼んできて事業を継承させる、それでＣＣＲＣ構想も含めて中心市街地形成を図る、いわゆるコンパクトなまちを作っていかなくてはならない。一方では美東、秋芳にもそういう効果を与えていかなくてはいけない。こういう意味から、一つは中心市街地形成をしっかりやっていく必要があるのではないかと私は感

じました。美祢市ではこれから育てるのは大変だろうと思うんで、そういう人達を制度上どうやって誘致して、技術を継承していただいて、事業を興していってもらう。これはまたＣＣＲＣ構想の中で考えていきたいなとこのように思っています。それがベースになるのがまち・ひと・しごとの創生総合戦略になります。

○佐々木秀介 委員 高校の魅力向上というところで、先程の高校であると普通科と機械科と電気科というようなことで、過程からはずれるかもしれませんけれども、美祢の特徴の一つとしてやはり観光があると思うんですね。例えば高校の教育プログラムと商業科的なぶんで観光というようなものでくくって、そういったものを職業高校でなくて学ぶことができるということであれば、それは全国的にもかなり数少ないですね。カリキュラムの中に秋芳洞のアテンダントの体験だとか、観光施策について入っていくようなそういう教育課程みたいなものがあれば、全国的にかなり珍しい取組になってくると思う。そうすると県外からでも、そういったことに興味があって将来観光にたずさわりたいというような人が、高校の時点からそういう学校があるんだったら山口に行ってみようという流れが出てくるかもしれないですね。そうすると子供さん一人で下宿するのか、親御さんが付いて行くのか、そうすると移住・定住というところにも繋がってくると思います。ですから、そういったぐらいの施策が無いと、なかなかちょっと、魅力をと言っても、思い切ってじゃそこに行こうという腰が上がるところまでいかないと思いますので、そういったような美祢の一番の特徴というか魅力を考えた取組が一つできたらいいのかなと思いました。

○竹岡昌治 会長 同感なんです。今申し上げたように、そういった技術継承するというのは、例えば高校でパンを作る、どうしたらおいしいのということを本当に教えてくれるところは無いんですよ。みんな職人さんから習いながらこうやってきているわけですが、今は皆冷凍にして、ホイルをかけて、温めて、一時発酵させて、そして焼くと。技術も何も要らないんですよ。ですが、お客さんが求めているのは、ちゃんと作ったものを求めているわけですから、そういった専門教育を美祢ならできるよ。そして美祢の高校出たら即起業もできるよというような、やっぱしそういう人をどうやってやるのか。わざわざドイツまで行かんでも、そういうところで何か特徴のあるものが欲しいなと痛切に思って帰りました。今お世話している方なんですが、美東のごぼう茶を実は持って行って、三井農林でそれを分析していただいて、お茶にしようと。三井農林も今から先は地域とどうやって関わりを持ちながら、世界に打ち出すか。いわゆる三井農林と言ってもわからんと思いますが、日東紅茶です。日東紅茶に美東のごぼう茶を送っています。提げて行って、そして分析していただいて、それをお茶にで

きないか。今山に捨てておられるんですよね、ちっちゃい物を。山に捨てたためにイノシシが餌づいちゃって、今度は本当のごぼう畑に出るようになっちゃって、捨てないでくださいと言っているんです。量産ができるんかと言ったらできないと思います。ですが、非常に付加価値の高い、特保でないと、どうしたらやれるんかというのを今取り組んでいるところなんです。そうしたことからご縁があって私しているわけですが、その時に痛切に思ったのが、即戦力のある子供を育てていただきたいと言ったのは、そうした今回のこともあったんでございます。参考になればと思います。

何か他にご意見がございますか。無いようでしたらボチボチ閉めに入りたいと思うんですが、本来なら７月にやりました、これで今年度は終わりですよということでしたが、いや、そうじゃないよと、再度集まっていただいて、皆さんと意見を交わしたいと申し上げまして、本日開催したところです。また、皆さんのほうからですね、新たな取組をしようじゃないかというようなことがありましたら、ぜひご連絡いただければ、予算が無くても仕方がありませんから、また何らかの方法で会議を進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。他に無いですか。無いようでしたら、ご理解いただきまして、今日ご提案申し上げました案件につきまして、ご承諾をいただきたいんですが、いかがでございますでしょうか。（発言する者無し）

一応ご承諾いただいたものというふうに認識させていただきます。

（４）その他

（発言する者無し）

（５）閉会（竹岡昌治 会長）

本当に日常の活動されている中で何かありましたらまた申し出ていただいて、やりたいと思います。それでは、本日はこれをもちまして会議を終了したいと思います。長時間にわたりまして、ご熱心に協議いただきましたことを厚くお礼申し上げまして終わりたいと思います。ありがとうございました。